

— ジャパニーズ・ヴィーナス —

Japanese Venus

田中美術館秋季特別展

彫刻家藤井浩祐の世界



かがみ 昭和13(1938)年 ブロンズ
《鏡》 第2回新文展 京都市美術館蔵

平成26年8月29日^金～10月19日^日 ^{いばら}井原市立^{でんちゅう}田中美術館

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) ※8月29日は開会式のため、一般の開館は10時30分からとなります。

休館日 月曜日(ただし、祝日は開館し、翌日休館) ※9月15日、10月13日は開館。9月16日、10月14日は休館。

入館料 一般 700(560)円／65歳以上 350(280)円／高校生以下無料 ※()内は前売券・有料団体20名以上の料金。

〔前売券販売所〕チケットぴあ、セブンイレブン、サークルK、サンクス(4店共通Pコード766-337)、ローソンチケット(Lコード63664)、山陽新聞社サービスセンター、笠岡市立竹喬美術館、ふくやま美術館、華鶴大塚美術館、ぎんざや、喫茶パレット(倉敷市立美術館内)インディスク(天満屋倉敷店内)、天満屋トラベルなど岡山県内の各プレイガイド、井原市内の公共施設などでお求めください

主催：井原市立田中美術館

共催：山陽新聞社

後援：中国新聞備後本社、読売新聞岡山支局、朝日新聞岡山総局、毎日新聞岡山支局、RSK山陽放送、KSB瀬戸内海放送、RNC西日本放送、TSCテレビせとうち、OHK岡山放送、oniビジョン、エフエムふくやま、岡山県郷土文化財団、井原市文化協会、井原放送、井原鉄道



《梳理髪》昭和12(1937)年 ブロンズ
第1回新文展 東京国立近代美術館蔵



《爪を切る女》昭和2(1927)年 ブロンズ
再興第14回院展 新潟市美術館蔵



《若い女の首》昭和15(1940)年 セメント
碌山美術館蔵

EVENT ● イベント

■ 記念講演会

<聴講無料・事前申込不要>

演題：藤井浩祐の彫刻の美しさ

講師：田中修二 氏(大分大学准教授)

日時：9月14日(日) 13時30分～15時

会場：井原市民会館 鏡獅子の間

■ 当館学芸員によるギャラリートーク

<要・入館料>

展覧会の解説案内をいたします。

日時：9月4日(木)、13日(土)、21日(日)

10月12日(日)

13時30分～14時15分

会場：特別展会場

田中美術館 秋季特別展

ジャパニーズ・ヴィーナス— 彫刻家 藤井浩祐の世界

再興日本美術院(院展)黎明期の20年間、10歳年長であった木彫の平櫛田中と共に、彫塑の主軸として活躍した藤井浩祐は、瀟洒で優美な裸婦像で広く知られました。

藤井浩祐(のち1953年より浩祐、1882生—1958歿)は、明治15年、東京神田に生まれ、東京美術学校で彫刻を学びました。卒業後、文展で受賞を重ね、注目を集めます。

大正5年(1916)には再興日本美術院の同人に加わり、昭和11年(1936)に脱退するまで、決して大きくはありませんが、珠玉ともいえるべき作品を1回に3点、5点と並べて院展に出品しています。浩祐の芸術は、1点をじっくり見つめるよりも、様々なしぐさをした複数の作品をまとめて眺めることによりその美しさが感得できるように思います。院を脱退後は、官展に復帰して名作《鏡》《梳理髪》で円熟の境地を示しました。

これらの展覧会芸術と並行して、建築装飾や、現在の全国高校野球選手権大会の参加章制作、東京府内の小学校で自らの考えに基づく「自由彫塑」の指導の実践、彫刻志望者に大きな影響を与えた彫刻の技法・啓蒙書『彫刻を試みる人へ』(大正12年刊)の執筆など、広く社会との接点を求めた活動を積極的に行いました。

このように生前の浩祐は実作のみならず、彫刻の普及にも大きく貢献し、昭和12年(1937)に帝国芸術院(1947年に日本芸術院と改称)の会員に選ばれています。

しかし、第二次世界大戦でのアトリエ焼失により、展覧会出品作のほとんどが失われたため、今までその芸術の全容がつかめませんでした。

初の本格的な回顧展である本展では、日本における美の女神の創造を生涯の理想とした藤井浩祐の歩みを折々の代表作でたどりつつ、彼の幅広い領域の活動を紹介し、近代日本彫刻史における業績を振り返ります。

本展は小平市平櫛田中彫刻美術館
(会期：10月25日～12月7日)に巡回します。



《潭》明治45(1912)年 大理石
第6回文展 東京国立近代美術館蔵



《犬》制作年不詳 ブロンズ 個人蔵



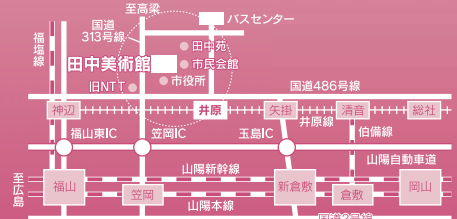
《あんばん 文鎮》制作年不詳 ブロンズ彩色
銀座木村家蔵



《浴後》制作年不詳 テラコッタ 神宮徴古館蔵

主な出品作品

《背を拭く女》再興第13回院展・新潟市美術館蔵、《捕球の刹那》野球殿堂博物館蔵、《臥裸婦》東京藝術大学蔵(平櫛田中旧蔵)などブロンズ作品を中心に、初期の名作として知られる大理石像《潭》、戦時中のセメント彫刻《裸婦》紀元二千六百年奉祝展・碌山美術館寄託、建築装飾の趣があり、ブロンズに铸造せず石膏を完成作にしたと考えられる《裸婦》笠間日動美術館蔵や、被災によりブロンズが失われた作品の貴重な石膏原型、愛犬家として著名であった浩祐の面影を伝える犬をモチーフにした作品、妻の実家であった銀座木村家の名物をブロンズ彩色で作った《あんばん 文鎮》、東京っ子で、洒落な趣味人であったことが伺える杖の柄、バックルなど多彩な素材と主題を縦横に用いた名品80数点を展示します。



[交通のご案内]

- 井原線 井原駅より徒歩15分
 - 岡山からJR伯備線(清音乗り換え)～井原線で井原駅下車 所要時間約60分
 - 福山からJR福塩線(神辺乗り換え)～井原線で井原駅下車 所要時間約35～50分
 - 新幹線ご利用の場合は、JR岡山駅または福山駅で下車となります。
 - JR笠岡駅より井笠バスカンパニー井原行 駅前通り下車 徒歩5分
 - 山陽自動車道 笠岡インターより20分
- ※井原線時刻表は、井原線ホームページ、駅前探検倶楽部などで検索できます。